

熱帯の有用材 (17)

緒 方 健

Entandrophragma 属 (センダン科) の樹木 (2)

前回のサペリに続き、*Entandrophragma* 属の他の3種について述べる。これらの樹種は多くの地方名をもつが、各樹種が必ずしも明確に区別されず共通の名称で呼ばれていることもある。

2. ウティレ (Utile) 学名: *E. utile* (Dawe et Sprague) Sprague

シェラレオネからコンゴまでの熱帯西アフリカとさらにはザイールからウガンダにいたる中央アフリカに分布する樹木で、湿潤な常緑林から乾燥したサヴァナ林に生育し、良い条件下では樹高 40~50 (~60) m, 枝下高 30 m, 直径 0.7~2.0 m に達する。主産地はコートディヴォアール, ガーナ, ナイジェリア, カメルーン, コンゴである。ウティレというのはガーナの名前で、そのまま学名にも使われている。コートディヴォアール名のシポ (Sipo), カメルーン名のアシエ (Assié) も市場名としてよく用いられる。その他には Bada, Mebrou または Zuir (コートディヴォアール), Efuobrodidwo, Efuodwe または Efuchyewee (ガーナ), Akuk, Ogipogo または Ubilesan (ナイジェリア), Timbi (カメルーン), Assi, Cossi-cossi, Ombolobolo または Moura-galamando (ガボン), Kalungi (コンゴ) などの地方名がある。

心材はくすんだ褐色~赤褐色~紫褐色で、やや光沢がある。肌目はやや粗、木理は交錯する。気乾比重 0.50~0.75。サペリに似るが、サペリより濃色で、肌目がいくらか粗く、木理の交錯する度合いは少ない。またサペリに特徴的な針葉樹様の芳香はもたない。放射組織の層階状配列によるリップルマークがみられることがあるが、サペリほどはっきりしない。

3. ティアマ (Tiam) 学名: *E. angolense* C. DC.

樹高 40~50 m, 直径 70~140 (~220) m に達する樹木で、熱帯西アフリカに広く分布し、さらに東はウガンダにまでみられる。ティアマの名はコートディヴォアール, ナイジェリア, ガボン, コンゴなどで用いられ、このほかナイジェリア名のゲドゥノホル (Gedu nohor; Gedu noha または Gedu lohor ともいう), ガーナ名のエディナム (Edinam) も市場名として用いられることがある。その他の地方名としては Koupri, Loko popo (コートディヴォアール), Tiamatama, Krobra または Dukuma (ガーナ), Timbi (カメルーン), Abeubegne または Dilolo (ガボン), Ipaki, Kalungi, Lifaki, Longo または Mukumi (コンゴ), Mukuso または Muyovou (ウガンダ) など。

OGATA, Ken : Useful Timbers in the Tropics (17) Trees of *Entandrophragma* (2)
農林水産省森林総合研究所木材利用部

心材は新鮮な間は桃褐色だがやがて橙褐色～赤褐色に変わる。新鮮な材はサペリに似た芳香をもつことがあるが、強くない。肌目はやや粗、木理は交錯し、リボン杻を現す。リップルマークはみられない。気乾比重0.50～0.63。材の評価はサペリやウティレよりやや低いが、

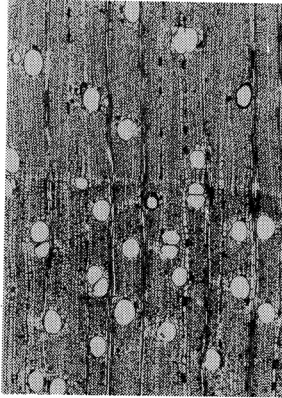


写真-1 *E. angolense*
木口面 (16×)

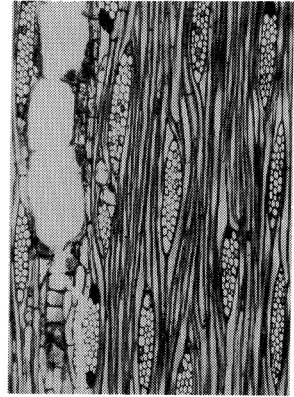


写真-2 同左 板目面
(40×)

材色や比重(他のものより小さい)の点でアフリカンマホガニー(センダン科 *Khaya* 属)に似たところがあり、その代用とされる。

4. コシボ (*Kosipo*) 学名: *E. candollei* Harms

樹高 40～50 m, 直径 0.7～1.2 (～2.0) m に達する高木で、ギニアからアンゴラにかけての熱帯西アフリカに分布し、また内陸ではウガンダにまでみられるが、一般にサペリやウティレほど多くはない。主産地はコートディヴォアール～ナイジェリアである。コシボはコートディヴォアール名で、広く商業名として使用されるほか、ナイジェリア、ガボン、コンゴなどではオム (Omu) もよく用いられる。他には Penkwa (ガーナ), Assoré または Ikwapobo (ナイジェリア), Atom-assié または Klatié (カメルーン), Coba-coba または Etom (ガボン), Lifaki または Mpempe (コンゴ), Lifuko (アンゴラ) などがある。

心材は濃赤褐色、木理は著しく交錯し、リボン杻を現す。肌目は粗。リップルマークはみられない。芳香はない。*Entandrophragma* 属中では本種にだけ放射組織および軸方向柔組織にシリカを含むが、一般にあまり多くなく、また樹脂様の内容物が多いので顕微鏡下で見分けにくい。気乾比重 0.60～0.80。濃色でかつ比重が高いため、装飾用材としての価値はサペリなどに比べてやや低い、強度は大きい。

サペリも含めこの属の樹種の木材はよく似ているが、多少の色の差や芳香の有無のほか、軸方向柔組織の発達程度、放射組織の幅 (*E. utile* は 1～3列で他のものより狭い)、隔壁繊維の有無 (*E. angolense* および *E. candollei* では無いが乏しい)、結晶の有無 (*E. cylindricum* では多いが、他は少ない) などに樹種間の違いが見られる。しかし明確に識別するのはむずかしい。また、*Entandrophragma* 属の木材は外観的に南米のマホガニー(センダン科 *Swietenia* 属)やアフリカンマホガニー(前出)に似るが、一般的に言ってやや紫色を帯びる傾向がある。